

日本あちこち河川遡行記（第 302 回）

大阪-3. 石津川（その 1）前半 令和 1 年 11 月 22 日（金）曇り

大阪第三の川「石津川」に出かける。天気予報では堺は午後小雨となっているが等圧線の形から雨は大丈夫とみて何時ものこだまでは無く、すぐ後のひかりに乗る。団体が抑えたのかこだまは予約が取れなかった。ひかり利用でも「おとなび WEB 早特こだま指定席切符」の扱いである。どちらも新大阪までは各停でひかりの方がこだまより時間が多少かかるので、「安うーしときます」だ。



01.今回調査区間（黄緑色線）

南海難波駅に上がり、これまで利用してきた高野線の左側のホームを横目に、泉州、紀州向けの右側のホームに向かう。関空行き区間急行に乗ると大きなキャリーバッグを幾つも引っ張って中国系の乗客が大勢乗ってくる。鉄人 28 号の特急には乗らず安く乗れる急行利用である。流石中国人でんな。

「堺」駅で各停に乗り換えると、なんと高野線の山線用のあの好きな電車である。たった二駅間の乗車で「石津川」駅で下車。本線に乗るのは二十年ぶりぐらいである。ここまで阪神、阪急、京阪、近鉄と時計周りに在阪私鉄に乗ってきて最後の南海本線である。難波からここまで全線高架橋の連続であった。難波から始まった連続高架化が少しずつ南に延びてここまでやって来たようだ。ライバルの阪和線は大阪市南部の我孫子町と杉本町との間までで終わっている。阪神本線は高架と地下化で全線の 8 割が立体化されている。狭い大阪市内の鉄道の大半は立体化されており、東京は最近になって立体化が進捗してきだした

。初めて降りた石津川駅に駅付近の地図が有ったのでカシャ。駅前に出ると広場にモニュメントが有る。解説を読むと、この辺りでは野菜栽培用水として地下水を風車でくみ上げていたとのことで、その歴史を伝えるための風車のモニュメントなのだ。



02.南海「石津川」駅付近の地図



03.地域の歴史を語るモニュメントが駅前に



04.地下水を汲み上げる風車が多くあったのだ

河口部に架かる阪神高速湾岸線の橋（高架橋）と府道 29 号線の橋に向かい、29 号に来ると北に向かう大型トラックが渋滞でノロノロ運転をしている。堺から泉北にかけては臨海工業地帯が広がり、子供の時に海水浴に連れてきてもらった時の浜寺付近の面影は全く無い。久しぶりの凄まじい車の列に圧倒されながら歩道を南に進み橋に至る。

右岸側の川沿いの遊歩道を上流に向かうと直ぐに大阪府設置の河川距離標識が立っている。流石、「石津川」は堺市南区の池から流れる泉州一の大河？で、それなりの扱いがなされているぞ。



05.河口部に架かる阪神高速と府道
29号の橋



06.泉州最長の川には距離標識が

遊歩道は川と道路との間の狭い舗装道であるが、車道との間に柳が並び川沿いに相応しい。道路の向こう側に石柱が立っているので向かうと、狭いながらも綺麗に石が敷かれた広場の入り口に「石津太神社 御旅所」の解説板が有る。この地は昔々戎大神が葦舟で漂着された所と言われてきた、とある。地名に津が付いているので港でもあったのだろう。三重県の「津」を筆頭に全国には津の付く地名が数多くある。坊津、唐津、江津、大津、津島、川津など。岡山県の津山も海ではないが、大きな吉井川がいくつもの支流を集めた港に適した地で、山に囲まれた港から付いた地名と思っている。



07.柳！川沿いの道に相応しい



08.ここはえべっさんが漂着した聖地だって

直ぐに府道 204 号が川を横断し、その橋はリベット構造のいかにも頑丈そうな橋である。親柱にはなんと昭和 8 年の銘板が有る。塗装は最近フッ素塗装が

なされピカピカの状態でもとも 86 歳のお年には見えない。4 車線道路の交通量の多い幹線道路の橋が良好な状態で現役で頑張っている。管理をよくしてあげれば 100 年は持つのだ！



09.府道 204 号の「石津川橋」はなんと昭和 8 年完成の橋

橋から南の方を見れば狭山で立ち寄ったあのうどん屋が見える。昼用に難波駅でサンドを買っていたが薄ら寒い天候で暖かい食事をと足はそちらに向かう。今日は牡蠣入りたまごあんかけうどんをはりこむ。泉州は信太生まれの「あんかけの時次郎」にあやかってあんかけうどんとした。

体が温まったところで遡行再開。左岸側を進むと直ぐに南海本線の橋の下を潜る。複線の 3 径間中路桁橋の下流側に単線のトラスが並んでいるが電車は走っていない。ははーん、連続立体化を更に南に延ばすための第一期工事の上り線の切り替え用の橋だな。橋の反対側の擁壁の前にその証拠の図面などが開示されている。この 3 つ先の「羽衣駅」までの立体化工事の平面、縦断、横断図が書かれている。堺市内全線が立体化される。



10.南海本線の複線橋の横に単線の未供用の橋が



11.やはり、連続高架橋を南進させるための切り替え予定の橋だった

[続く]